

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-132	12-016	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
The effects of low to moderate prenatal alcohol exposure in early pregnancy on IQ in 5-year-old children. 妊娠初期における小～中等量飲酒が 5 歳児の IQ におよぼす影響		
執筆者		
H-L Falgreen Eriksen, EL Mortensen, T Kilburn, M Underbjerg, J Bertrand, H Støvring, T Wimberley, J Grove, US Kesmodel		
掲載誌		
BJOG 2012;119:1191-1200.		
キーワード		
知能、IQ、小～中等量飲酒、神経発達への影響、出世前曝露、Wechsler Preschool and Primary Scale of Intelligence (WPPSI-R)		
要 旨		
目的： 早期妊娠時の小～中等量飲酒が、出生後の子供の 5 歳時点での全般的知能に及ぼす影響を検討する。		
方法： デンマークの 4 市において 2003-2008 年において神経心理学的試験を受けた女性 1,628 人のコホートとその子供たちを対象とした追跡研究である。妊娠期の飲酒状況をもとに対象者を抽出した。5 歳の時点で改訂版 Wechsler Preschool and Primary Scale of Intelligence (WPPSI-R) を施行した。解析時の重要な交絡因子として以下の項目を考慮した：両親の教育、母の IQ、妊娠中の母親の喫煙、テスト時点での子供の年齢、(子供の) 性別、テスト施行者。一方、その他の調整因子として次の項目を含むものをフル・モデルとした：母親の短時間大量アルコール摂取、母親の年齢および妊娠前の体格指数 (body mass index: BMI)、出産回数、家庭環境、出生後の親の喫煙状況、健康状況、聴力・視力障害の指標。		
結果： 1 週間当たり 1-4 ドリンク (1 ドリンク=アルコール換算 12~13g) の飲酒を報告した母親の子供と 5-8 ドリンクの飲酒を報告した母親の子供とでは、5 歳における WPPSI-R の違いはなかった。1 週間当たり 9 ドリンク以上の母親の子供でも平均 WPPSI-R の差は認められなかったが、全検査 IQ スコアおよび言語性 IQ スコアの低下が認められた (低 IQ であるオッズ比[95%信頼区間]はそれぞれ 4.6 [1.2-18.2]、5.9 [1.4-24.9])。一方、動作性 IQ の低下は認めなかった。		
結論： 就学前の子供において妊娠中の母親の小～中等量飲酒は平均 IQ とは関連を認めなかった。今回の所見にも関わらず、妊娠中のアルコール摂取許容量は未だ確立していない。現在でも保守的な観点から、妊娠中の女性はアルコール摂取を控えることが推奨されている。		